

平成22年3月24日

浜高だより



発行：島根県立浜田高等学校

P T A事務局・総務部

浜田高校ホームページ

<http://www.shimanet.ed.jp/hamada/>

卒業証書授与式



去る3月3日、本校体育館にて第61回卒業証書授与式が行われ、245名(全日制:232名、定時制:13名)の生徒が、来賓・保護者・在校生・教職員に見守られながら巣立っていきました。浜高の長い伝統を感じさせつつも、恒例となった式歌合唱など、温かさも感じられる素晴らしい式となりました。送辞を2年倉本舞さん、答辞を卒業生代表の吉川智紗さんが行い、それぞれ新型インフルエンザにより実施が困難になった浜高祭を浜高生は見事に乗り越えたこと、それを支えてくれた両親や先生への感謝を述べ、会場は感動に包まれました。

校長先生は、式辞の中で、「夢や理想を大切にしてほしい」、「一生を通して学び続ける」ことの意義についてお話しになり、卒業生へ贈る言葉とされていました。

「何のために学ぶのか。」一人一人が使命感を持ち、将来、人のため、社会のために尽くす人材に成長していくことを心より祈っています。ご卒業おめでとうございます！



転退任される先生方より

このたび、9名の先生方が転退任されることになりました。お世話になった先生方より一言ずつメッセージをいただきました。

○ 松川教頭先生（矢上高校へ）

生徒の学力調査PISAという言葉をご存じですか。トップに輝く国がフィンランドです。教育力の高さや森と湖、キシリトール、ムーミン、ノキア、サウナ、サンタクロース、福祉の国などを連想する国です。フィンランド人はたくさんの本を読むと「フィンランド 豊かさのメソッド」（堀内都喜子 著）で紹介されていました。本校は朝読書の時間があります。読書は豊かな人生を送り生涯の財産になるものと信じています。

2年間、温かい生徒の皆さんに囲まれて過ごすことができました。ありがとうございました。

地歴科

○ 渡辺 達也先生（今市分校へ）

思えば短い7年間でした。益田から毎朝通勤する途中に出会う小学生たちも、いつの間にか親の手から離れ、足どりもすっかりし、ランドセルが小さく見えるようになり、そして今は中学生の制服を着ています。今高校生の君たちも7年前は小学生だった……。君たちは確実に成長しています。「過去と他人は変えることはできないけど、未来と自分とはかえることができる。」私の仕事は他人である君たちを「変える」ことですが、そのことが十分に果たせなかったことを今悔いています。君たちは自分自身と自分の未来をもっともっと変えていく可能性を秘めています。

○ 河井 俊彦先生（津和野高校へ）

ドラッカーという人物をご存じですか？先日 NHK「クローズアップ現代」でとりあげられる程の著名な経営学者です。今日みなさんにご紹介したい本は、そんなドラッカーの『マネジメント』をある都立高校野球部の女子マネージャーが、マネージャーに関する本と勘違いして思い込み購入してしまうも、その内容を自身の組織＝「野球部」の経営に当てはめ、見事に甲子園出場！？までの道のりを描いた小説です。

人は、情には情でこたえるもの。なんだか浪花節ですが、愛情を持って目力で頼むと訴えられればそれにこたえたいと感じた自分。浜高の4年間で培った人間関係を今後も大切にしていきたいと改めて感じさせてくれた一冊です。

クラスや部活動の仲間づくりに行き詰ったら、岩崎夏海著『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』（ダイヤモンド社）をぜひ一度読んでみて下さい。

図書だよりのお薦め本紹介風に原稿を書かせていただきました。

○ 山田 忠幸先生（平田高校へ）

末期がんを宣告されると、生きている1日、1日が輝いて見えるそうです。転勤が決まって浜田高校にいる日がどんどん減るにつれ、1時間、1時間の授業がこれほど大事なもののなのかということを実感しました。でも、実は私も含めて皆さんも、この学校にいることは限りあることだということを入学の時から知っているんですよね。もっと早く気がつけば、もっと何か、とてつもないことが出来たかも・・・。

転勤という出来事を通じてそんなことを考えました。これはきっと、平田高校でも遠慮なくやりたいことをやれということかな。皆さんに会えて本当に良かったです。よい人生を！

数学科

○ 吉村 隆先生（安来高校へ）

浜高生活4年間の中で、印象深い思い出は3つあります。1つ目は、補習科担任。2つ目は、卓球部女子の中国大会出場。3つ目は、浜高祭で関ジャニ、EXILEの曲を歌い踊らせてもらったことです。勉強、部活動、学校行事それぞれで大きな思い出ができてとても嬉しく思っています。4年間、みなさんのおかげで気持ちよく勤務することができました。有難うございました。

英語

○ 立石 香織先生（松江南高校へ）

産休・育休に入られる先生の代替で浜高に赴任してから3年と半年が過ぎました。私の母校よりも長く通わせていただけたので、今の気持ちは卒業生と同じくらいの感動と感謝、そして寂しさでいっぱいです。特に現2年生、いえ、新3年生とはもう一年一緒に過ごしたかったというのが本音です。お互いに新しいステージに立つ身です。なりたい自分に一歩でも近づくチャンスが与えられています。あとはやってやるんだという強い意志を持ち続けるだけ。その『覚悟』をするだけです。是非頑張ってください。皆さんの活躍を心より祈っています。3年半、本当にありがとうございました。

実習教員

○ 江崎 紀子 先生（退職へ）

さわやかな挨拶で一日が始まる浜田高校。その挨拶で「さあ、今日も頑張ろう！」と、私の一日が始まりました。素直な皆さんが大好きでした。今まで出会ったたくさんの人たちに感謝の気持ちを忘れず、これから出会うたくさんの人たちに感謝の気持ちを持って、素敵な大人になってください。有難うございました。

事務

○ 下森 純 さん（津和野土木事業所へ）

今年の卒業生と同じ3年前に浜田高校に赴任し、卒業することになりました。

浜田高校に赴任して最初の浜高生の印象は、大きな声で気持ちの良いあいさつをすることでした。大変印象に残っております。普段はあまり生徒の皆さんと接することがなく、一緒に行事に参加することは少なかったのですが、真剣に取り組む姿に

こちら元気も沢山もらいました。

これからも高い目標をもって成長してください。お世話になり、ありがとうございました。

○ 宅間 ひとみ さん（松江東高校へ）

浜田高校に赴任してからの三年間は、あっという間に過ぎました。事務室ということもあり、生徒の皆さんと接することはあまりありませんでしたが、浜高祭などでは、若さあふれる情熱や真剣さをひしひしと感ずることができ、あらためて“若いっていいな～”と実感させられました。

また、行事のたびに浜高が伝統校であるということも納得させられました。その伝統校に勤務できたことに感謝いたしますとともに今後の皆様のご活躍を祈っております。三年間ありがとうございました。

救急処置法講習会



3月11日、1年生を対象に浜田市消防署の職員の方を講師として招き、心肺蘇生法とAEDの取り扱いについて講義と実習を行いました。実際の非常事態に対応できるよう人形を使って人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使い方を一人一人練習しました。

いざというときに大事な人の命を守れるよう「正しい知識を身につけ、冷静な対応をしてもらいたい」と、消防署の方も真剣に訴えておられました。

薬物乱用防止講座

3月11日、2年生を対象に浜田警察署の方に講演をしていただきました。はじめに、浜田市における薬物押収についての実態を話してもらい、続いて薬物依存者の復帰のためのリハビリ施設であるダルクの映像を視聴しました。



最後に、浜田市の県大生の事件を受けて、生徒一人一人に防犯の意識を持ってもらうため護身術の実演をしました。

生徒にとって、薬物乱用の危険性を知る機会と防犯意識を高める良い機会となったと思います。

4月当初の行事予定

| | |
|-------------|---------|
| 4月 4日（土） | 開寮 |
| 6日（火）・7日（水） | 3年生校内模試 |
| 8日（木） | 始業式 |
| 9日（金） | 入学式 |
| 10日（木） | 課題テスト |



